

# FX特別レポート

ひまわり証券株式会社  
東京都港区海岸 1-11-1  
ニューピア竹芝ノースタワー6F

2010年04月09日

## 山岡和雅の今週のタクティクス特別レポート

(株)GCI キャピタル

チーフストラテジスト 山岡和雅

山岡流短期トレード手法を活かした今のポンド/円

基本戦略	ポンド/円 ショート (売り)	
ポジション	143.20 円 10万ポンド 売り	
ターゲット&ストップ	【リミット】	140.35 円 5万ポンド 買い (その後 143.20 円の水準に戻ったら 5万ポンド再び売る)
	【ストップ】	136.30 円 5万ポンド 買い
	【ストップ】	145.15 円 10万ポンド 買い



ポンド/円 日足

※チャート画像は「ひまわり FX PRO」参考

### 【ポンド/円 2010年の概況】

1. 年初 150 円超の水準で推移していたポンド/円は、ギリシャ問題を受けたユーロ安につられるかたちで売りが強まった。英国の財政赤字に対する懸念もあり、3月はじめには一時 132 円近辺と、年初から 18 円超の下落を見せる場面もあった。
2. ユーロには加盟していないが、EU 加盟国として、ユーロ圏諸国と地政学的に結びつきの強いポンドは、ギリシャ問題の影響をまともに被ったかたち。
3. 財政赤字に関しては、昨年まで楽勝ムードであった野党保守党（財政再建への意欲が高い）の世論調査での苦戦が伝えられ、与党労働党（財政再建よりも景気回復）が第一党となる可能性が高まったことで、市場の懸念が強まった。
4. しかし、ギリシャ問題が IMF とユーロ加盟国との共同での救済案合意などを受けて、一時懸念が弱まったこともあり、3月以降はポンド/円も回復へ。
5. 特に、3月後半からのドル円、クロス円全般にわたる円安傾向もあり、ポンド/円は 134 円台から 145 円手前までと、約 10 円の上昇をみせ、今年 1 月以来の高値水準をつける展開がみられた。
6. 2月後半からの下げ分を全て戻したあとは、ギリシャ問題の再燃もあり、利益確定が目立つ展開となり、上昇は一服している。

### 【スウィング取引における山岡の基本姿勢】

1. 短/中期のトレードを行う場合でも、当該通貨の大きな流れを確認するために、日足のチャートなどで、大きな流れを確認する。
2. 日足では、ざっくりとした方向感を確認すると共に、移動平均、ボリンジャー、一目均衡表などの位置を確認する。
3. ファンダメンタル面では、大きな流れを作ってきた相場の注目材料を確認する。
4. 注目材料の現状、予定されている発表/イベントなどを元に状況変化の可能性を探る。
5. 1 週間ほどの値動き/高値安値などの状況や、時間足でのテクニカルポイント（移動平均、ボリンジャー、RSI、MACD など）をもとに新規指値およびリミット/ストップの水準を決めていく。

### 【注目ポイントと今回の基本戦略】

1. 注目ポイントは 4 つ。①ギリシャ問題②英総選挙③英経済動向④米経済動向
2. ギリシャ問題に関しては、一旦落ち着いたとみられた後で、再び懸念が広がったことへの失望感が強い。現状のギリシャ政府の姿勢から、状況改善が困難とみられ、当面は欧州通貨の売り材料として作用しそう。
3. 英国の総選挙については、英国の財政赤字問題と絡んで、今月の相場を動かす大きな要因となりそう。財政赤字が問題となっているというギリシャであるが、英国の財政赤字水準はギリシャ並み。OECD が昨年 11 月に発表した EconomicOutlook によると

来年以降の財政赤字状況は、ギリシャの水準をも大幅に越えるものとのみられています。それでもこれまでは財政再建への意欲が強い現野党保守党が支持率で与党労働党を圧倒しており、新政権樹立後は財政赤字も深刻な状況にはならないという期待があったが、2月以降保守党が支持率を落としており、現状ではどちらも単独過半数をとれない模様。連立政権の下では有権者の支持を得にくい財政再建の取り組みが後退するという懸念があり、ポンド売りが入りやすい。

4. 英経済動向は、それほど悪くない。8日に発表された2月の英鉱工業生産が予想、前回（1月）の数字を大きく上回るなど、企業動向はそれなりに堅調で、景気回復期待も強い。
5. 米国では、今月初めに発表された雇用統計が、民間部門雇用がしっかりした安心感のあるものとなった。クロス円全体の買い材料として、ポンド／円にとっても下支え材料。来週14日に予定されている米小売売上が強めに出ると、さらにこうした傾向が強まる可能性。
6. 売り買いの材料が交錯しているが、これらの材料の内、今月に限っては総選挙に個人的には特に注目している。政局の混乱自体が当該通貨の売り材料として大きく影響することが多いことに加え、財政赤字削減が後退する見込みが強まると、格付け会社などから格下げへの懸念が出てくる可能性が高い。そうなるとポンドは大きく値を崩す可能性もあるとみている。
7. ポンド／円での売り戦略を基本とする。

#### 【新規ポジション】

1. 今週初めの高値144円台後半が大きなポイント。その後141円割れまで値を落とした後、英指標の好結果などをきっかけに2円以上値を戻している。この戻りを売りの好機としてとらえている。
2. 7日の戻り高値143円80銭が一つのポイントであるが、今の流れからみると、そこまで上がりきれず、戻りの水準を切り下げながらレンジを形成してくる可能性が十分あるとみる。
3. 現水準からそれほど離さず、143円台前半でのポジション作成とする（チャートA）。

### 【ターゲットとストップ】

1. 作成したポジションの内、半分は 140 円手前で利益を確定し、戻ったらまた売りという形をとる（チャート B）。大台近辺で利益確定の動きが元々出やすいことに加え、日足の 21 日線が現状 139 円台半ばまで上がってきている。その手前での買いも予想されるため、短期的なレンジの下限となる可能性は十分あるとみる。この場合、140-144 円のレンジ取引の可能性も。
2. 残り半分のポジションはじっくりとキープする。139.50-140 のサポート水準を割り込むと、先月つけた 135 円割れまで意識されてくる。その手前 136 円台前半までポジションを維持する形をとる。

今月の高値を超えて、145 円の台に乗せてくるようだと、状況が何か変わっている可能性が高い。ポジションをすべてクローズ（決済）する形をとる。

注記：1 回のステージでの取引はトータル 10 万取引単位 を基準とする。

#### ●山岡 和雅氏

1992 年チェースマンハッタン銀行に入行し、外国為替ディーラーの世界へと入る。1994 年にはナショナルウェストミンスター銀行（現：ロイヤルバンクオブスコットランド銀行）へと移り、2003 年 3 月までインターバンクディーラーとして外国為替市場の最前線で活躍したのち、2003 年 4 月から GCI グループへ。現在は GCI キャピタルのシニアアナリストとして情報配信サイト Klug（クルーク）を中心に為替情報の配信やセミナー講師などを行う。日本証券アナリスト協会検定会員。

GCI キャピタル 山岡和雅

4 月 9 日

■相場状況・分析等の投資情報に関連する記載内容における重要事項

当レポートにおける相場状況・分析等の投資情報に関連する記載内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。また、その正確性、信頼性、迅速性を当社が保証するものではありません。投資の最終決定は、ご自身の判断でお願いいたします。

■お取引における重要事項

取引におけるお申込みの際には、ひまわり証券のガイドブック、口座約款等の取引説明書をよくお読みいただき、仕組み、ルールや商品性を十分ご理解の上、お客様ご自身の判断と責任において取引いただきますよう、お願い申し上げます。

詳しくは[こちら](#)

■当レポートにおける重要事項

本メールが提供する各種情報の内容については万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。従って、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、ひまわり証券は一切責任を負うことはありませんので、ご了承ください。また、当レポートのすべての情報について、ひまわり証券の許可なく転載・掲載することを禁じます。

外部アナリストが執筆するアナリストレポート等の資料において、当該レポート等の資料の執筆者に対し、対価を支払い、レポート等の資料の執筆を依頼している資料がございます。予めご了承ください。

(c) Himawari Securities, Inc. All rights reserved.